

平成27年度 第2回京都市政策評価委員会

日時：平成28年2月2日（火）
午前10時から11時30分まで
場所：職員会館かもがわ第5会議室

次 第

1 開 会

2 議 事

- 1 平成28年度市民生活実感調査について
- 2 政策評価制度に関する意見（素案）について
- 3 市民意見の受付状況
- 4 その他

3 閉 会

（配布資料）

- 資料1 平成28年度市民生活実感調査の実施概要
- 資料2 平成27年度第1回委員会における意見（要旨）
- 資料3 政策評価制度に関する意見（素案） ～平成27年度 政策評価結果を受けて～
- 資料4 政策重要度と市民生活実感のマトリックス
- 資料5 施策評価票
- 資料6 市民意見の受付状況
- 参考資料 政策評価制度のこれまでの主な改善点等について

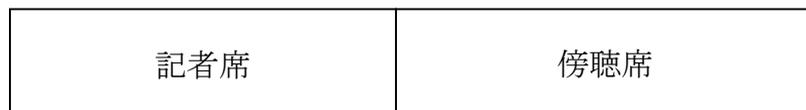
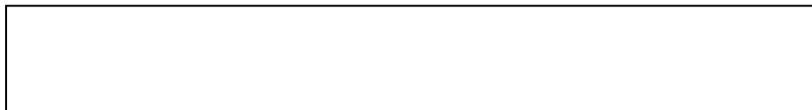
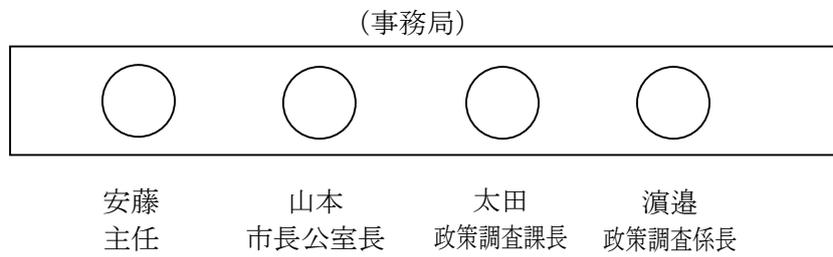
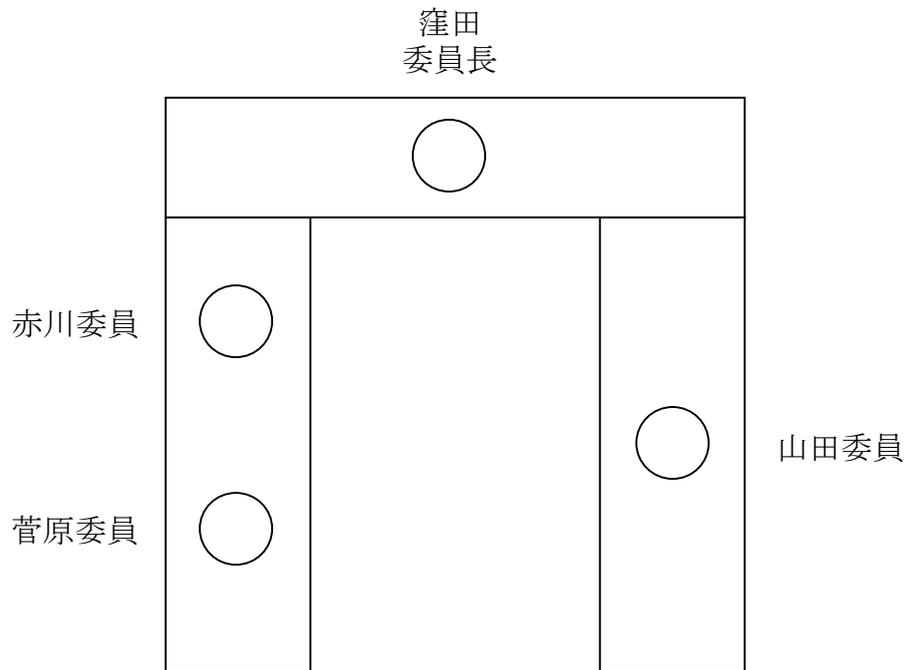
京都市政策評価委員会委員名簿

(敬称略・50音順)

氏 名	役 職 等
あかがわ きょうこ 赤川 京子	公認会計士
かざま のりお ○風間 規男	同志社大学政策学部教授
くぼた よしお ◎窪田 好男	京都府立大学公共政策学部准教授
しばはら ひろみ 芝原 浩美	特定非営利活動法人ユースビジョン事務局長
すがはら けいこ 菅原 敬子	市民公募委員
せき えりか 関 絵里香	立命館大学経済学部教授
やまだ だいち 山田 大地	市民公募委員

<◎：委員長，○：副委員長>

平成27年度 第2回京都市政策評価委員会 配席図



(出入口)

平成 2 8 年度市民生活実感調査の実施概要

1 調査の目的

市民の皆様が、日々の暮らしの中で、京都のまちづくりについて「どのような実感をお持ちなのか」を調査するもので、その調査結果を、政策評価や政策の企画推進に活用するもの

2 調査対象

20歳以上の市民3,000人

(住民基本台帳(外国人データ含む)から無作為抽出)

3 調査期間

平成28年5月13日(金)～6月13日(月)

※ 平成27年度：平成27年5月12日～6月12日

4 調査内容

回答にかかる負担を軽減するため、アンケート調査票はA票・B票の2種類を作成し、それぞれ1,500人ずつに配布し、以下の内容について調査を実施

- (1) 生活実感 130問(アンケートA票・B票各65問)
- (2) 政策の重要度 27問(A票・B票共通)
- (3) 市政への関心度 1問(//)
- (4) 幸福実感 1問(//)
- (5) 自由記述

<参考>回収率の推移

年度	有効回答数	回収率
27	1,124	37.5%
26	1,105	36.8%
25	1,137	37.9%
24	1,186	39.5%
23	1,157	38.6%
22	1,222	40.7%
21	1,272	42.4%
20	1,486	37.2%
19	972	32.4%
18	1,099	36.6%
17	1,129	37.6%

※調査対象者数
3,000人(20年度は4,000人)

概ね10分程度で回答できる簡単なアンケート調査です。
調査結果を京都市政の更なる推進のために活用いたします。

京都市市民生活実感調査にご協力ください

皆様におかれましては、京都市政にご理解とご協力をいただき、心から御礼申し上げます。

このアンケート調査は、市民の皆様が、日々の暮らしの中で、京都のまちづくりについて「どのような実感をお持ちなのか」を調査するもので、市内にお住まいの方から無作為に選んだ20歳以上の3,000人の方々にご記入をお願いしています。

調査結果は、京都市の政策評価^{*}や市の仕事をより効果的に進めるために活用させていただきます。

今回お答えいただきました内容に関しましては、集計を行い、貴重なデータとして、市民の皆様にご利用いただけるよう、自由記述を除き公開させていただきます。ただし、アンケートは無記名ですので、個人が特定されることはありません。

ご多忙とは存じますが、何卒ご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

平成28年5月

京都市長

門川 大作

※政策評価：政策の目的がどの程度達成されているかを評価し、市民の皆様にお示するとともに、政策、施策の推進に役立つ仕組み

ご記入いただきましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて

5月27日（金）までに投函をお願いいたします。

この調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地
京都市総合企画局市長公室 「京都市市民生活実感調査担当」
(電話：075-222-3035 FAX：075-213-1066)

アンケート調査票は設問数が多いため、2つに分けて実施しています。
すべての設問は上記ホームページからご覧いただくことができます。

「市民生活実感調査」ホームページ

京都市 市民生活実感調査

検索

<http://www.city.kyoto.lg.jp/menu5/category/69-17-2-3-0-0-0-0-0.html>



記入方法、記入例は裏面をご覧ください。

記入方法

- アンケート調査をお願いしたご本人（封筒の宛先となっている方）がお答えください。
- 直接調査票に記入してください。
- アンケート調査票、返信用封筒には、お名前や住所を記入していただく必要はございません。
- アンケートは「生活実感」、「政策重要度」、「市政関心度」、「幸福実感」、「自由記述」に分かれています。

生活実感 (1ページから 4ページ)	質問ごとに、あなたの実感やイメージに基づき、5つの選択肢の中から1つ選んで○を付けてください。 質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。
政策重要度 (5ページ)	質問ごとに、あなたにとって今、それぞれの政策分野がどれだけ重要か、5つの選択肢の中から1つ選んで○を付けてください。
市政関心度 (6ページ)	市政の関心度について、1つ選んで○を付けてください。
幸福実感 (7ページ)	幸福に関する実感について、1つ選んで○を付けてください。
自由記述 (7ページ)	市に望むこと、アンケートに関することについて、ご意見・ご提案がございましたらご記入ください。

記入例

実感やイメージでお答えください。
分からない場合は何も印をしていただかなくて結構です。

質問		選 択 肢				
		そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも 言えない	どちらかという そう思わない	そう 思わない
質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。						
環境	Q1. 京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえないものと実感している。	a	ⓑ	c	d	e
	Q2. 省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。	a	b	ⓒ	d	e
	Q3. マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。	a	b	c	d	e
	Q4. ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。	ⓐ	b	c	d	e

生活実感

質 問		選 択 肢				
		そう思う	どちらか という そう思う	どちら とも 言えない	どちらか という そう 思わない	そう 思わない
環境	Q1. 京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	a	b	c	d	e
	Q2. 省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。	a	b	c	d	e
	Q3. マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。	a	b	c	d	e
	Q4. ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。	a	b	c	d	e
人権・男女 共同参画	Q5. いきいきと活動して自分の能力を発揮する場所や自分に合った働き方を見つける機会がある。	a	b	c	d	e
	Q6. 女性に対する暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。	a	b	c	d	e
青少年の成長と参加	Q7. 青少年が社会の幅広い分野にかかわり、意見や活力が活かされている。	a	b	c	d	e
	Q8. 青少年がニート※、不登校などの課題に直面したときに信頼して相談できるところがあり、支援がされている。 ※仕事も家事も通学もしていない15歳から概ね34歳までのひと	a	b	c	d	e
市民生活と コミュニティ	Q9. 町内会、自治会など地域の組織の活動が盛んである。	a	b	c	d	e
	Q10. 地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。	a	b	c	d	e
	Q11. 町内会、自治会などの地域の組織の主体的な活動と、それに対する行政の支援とがうまくかみ合っている。	a	b	c	d	e
市民生活の 安全	Q12. 犯罪や事故など万が一のことがあっても、お互いに助け合えるまちである。	a	b	c	d	e
	Q13. 事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にらせるまちになっている。	a	b	c	d	e
文化	Q14. 市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。	a	b	c	d	e
	Q15. 文化財が社会全体で大切にされ、地域の活性化にもつながっている。	a	b	c	d	e
スポーツ	Q16. プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。	a	b	c	d	e

質 問		選 択 肢				
		そう思う	どちらか という そう思う	どちら とも 言えない	どちらか という そう 思わない	そう 思わない
産業・ 商業	Q17. 京都では、さまざまな企業や産業の活動が互いに刺激し合って発展している。	a	b	c	d	e
	Q18. 京都の特色を生かした産業活動が行われている。	a	b	c	d	e
	Q19. 京都では、産業界・大学・行政などが連携して、企業の誘致や事業環境の整備を進めている。	a	b	c	d	e
	Q20. 京都の卸売市場は、安全・安心な生鮮食品の提供に役立っている。	a	b	c	d	e
観光	Q21. じっくり滞在し、ほんものとふれあい、歩いて楽しむ観光客が増えている。	a	b	c	d	e
	Q22. 京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる。	a	b	c	d	e
	Q23. 子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。	a	b	c	d	e
	Q24. 京都は、国際会議などが盛んに開かれる MICE※都市になってきている。 ※企業のミーティング、企業研修旅行、国際会議、イベントなどの総称	a	b	c	d	e
農 林 業	Q25. 京都の農林業は、環境に負荷をかけない栽培の取組や森林の整備を通して、地域社会に役立っている。	a	b	c	d	e
大 学	Q26. 京都では、世界から留学生や研究者が集まり、国際社会で活躍する人材が育っている。	a	b	c	d	e
	Q27. 学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。	a	b	c	d	e
国 際 化	Q28. 京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。	a	b	c	d	e
	Q29. 国籍、民族、文化等が違って互いに理解し合い、ともにいきいきとくらするまちになっている。	a	b	c	d	e
子 育 て 支 援	Q30. 子どもの見守り活動など、身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる。	a	b	c	d	e
	Q31. 必要なときに健康相談を受けたり、病院に行けたり、安心して子どもを生み育てることができる。	a	b	c	d	e
	Q32. 子どもたちが安心して過ごせる居場所や遊び場が身近にある。	a	b	c	d	e
福 祉 障 害 者	Q33. 障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域でくらしやすくなっている。	a	b	c	d	e

質 問		選 択 肢				
		そう思う	どちらか という そう思う	どちら とも 言えない	どちらか という そう 思わない	そう 思わない
質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。						
福祉 障害者	Q34. 働く場で、障害のあるひとがいきいきと働く姿を多く見かけるようになっている。	a	b	c	d	e
地域福祉	Q35. 地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる。	a	b	c	d	e
	Q36. 地域のつながりが、福祉活動や防犯・防災の取組に役立っている。	a	b	c	d	e
高齢者福祉	Q37. 高齢者が敬われ、心身ともに健康で充実したくらしを送れている。	a	b	c	d	e
	Q38. 介護サービスや住環境整備などが充実し、高齢者が住み慣れた地域でそのひとらしいくらしを送れている。	a	b	c	d	e
保健衛生・医療	Q39. 正しい情報を基に、健康づくりに取り組む人が増えている。	a	b	c	d	e
	Q40. 安心して食べられる食品が手に入るなど、衛生的な生活環境が整っている。	a	b	c	d	e
	Q41. 感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。	a	b	c	d	e
学校教育	Q42. 安全快適な学校施設や最新の設備など、充実した教育環境が整っている。	a	b	c	d	e
	Q43. 子どもたちが参加できる、さまざまな学びやスポーツ、体験活動の機会がある。	a	b	c	d	e
生涯学習	Q44. 京都には、大学や博物館、神社仏閣、企業、NPOなどが提供する学習機会が豊富にある。	a	b	c	d	e
	Q45. 地域での取組において、幅広い世代がともに学べる機会が充実している。	a	b	c	d	e
歩くまち	Q46. 京都では、過度な自動車利用を控え、歩くことを中心としたライフスタイル（くらし方、生き方）が大切にされている。	a	b	c	d	e
	Q47. 京都での移動には公共交通が便利である。	a	b	c	d	e
	Q48. まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。	a	b	c	d	e
都市機能	Q49. 田の字地域*や京都駅の周辺は、にぎわいのある魅力的な地域である。 ※河原町通、烏丸通、堀川通、御池通、四条通、五条通の幹線道路沿道地区	a	b	c	d	e
	Q50. 京都のまちの南部地域が発展してきている。	a	b	c	d	e

質 問		選 択 肢				
		そう思う	どちらか という そう思う	どちら とも 言えない	どちらか という そう 思わない	そう 思わない
機能都市	Q51. 身近な地域が魅力的になっている。	a	b	c	d	e
	Q52. 身近に誇りや愛着を持てる町並みや風景がある。	a	b	c	d	e
景観	Q53. 大通りや歴史的な地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えている。	a	b	c	d	e
	Q54. 建物を新築するときは、建築ルールが守られている。	a	b	c	d	e
建築物	Q55. 地震や火災に強い建物が増えている。	a	b	c	d	e
	Q56. 長く大切に使える住宅が増えている。	a	b	c	d	e
住宅	Q57. 身近な地域で空き家が減っている。	a	b	c	d	e
	Q58. 災害時も安全に移動できる道路網ができています。	a	b	c	d	e
道と緑	Q59. 市内の道路や橋が、市民の財産として、よい状態で管理されている。	a	b	c	d	e
	Q60. 身近なところで防火意識が高まり、出火防止の取組が進んでいる。	a	b	c	d	e
消防・防災	Q61. 消防署は、火災や事故などが発生した場合に適切に対応し、いざというときに頼りになる。	a	b	c	d	e
	Q62. 応急手当の知識や技術を備えたひとが増えている。	a	b	c	d	e
	Q63. 大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。	a	b	c	d	e
くらしの水	Q64. 水道水がおいしくなるなど、京都の上下水道サービスは向上している。	a	b	c	d	e
	Q65. 水や水辺環境が大切にされるなど、水と共に生きる意識が高まっている。	a	b	c	d	e

生活実感

質 問		選 択 肢				
		そう思う	どちらか という そう思う	どちら とも 言えない	どちらか という そう 思わない	そう 思わない
質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。						
環境	Q1. 「きれいな空気，清らかな川，静かなまち」など，よい環境が保たれている。	a	b	c	d	e
	Q2. 太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など，環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。	a	b	c	d	e
	Q3. 京都では，環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。	a	b	c	d	e
人権・男女 共同参画	Q4. 暮らしのなかで互いの人権を尊重し合う習慣と行動が広がっている。	a	b	c	d	e
	Q5. 女性も男性も，仕事と生活（家庭や地域活動など）をバランスよく充実できる社会になってきている。	a	b	c	d	e
青少年の成長と参加	Q6. 青少年が社会体験を通して「生きる力」を伸ばせている。	a	b	c	d	e
	Q7. 青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。	a	b	c	d	e
	Q8. 青少年の成長を支援する社会環境と，青少年を受け入れる居場所がある。	a	b	c	d	e
市民生活と コミュニティ	Q9. 地域の一員として安心してらせるまちになっている。	a	b	c	d	e
	Q10. 多様なNPO*やボランティア組織と町内会・自治会などの地域の組織が協力して活動している。 ※公益活動を行う市民活動団体の一種	a	b	c	d	e
市民生活の 安全	Q11. 悪質商法などによる消費者被害を防止し，被害を救済するしくみが整っている。	a	b	c	d	e
	Q12. 消費生活に関する情報や知識を備えた自立した消費者が増えている。	a	b	c	d	e
文化	Q13. 京都では，文化芸術にかかわる活動が盛んである。	a	b	c	d	e
	Q14. 文化・芸術活動によって，京都のまち全体が活気づいている。	a	b	c	d	e
スポーツ	Q15. 気軽に体を動かしたり，スポーツやレクリエーションを楽しんだりする機会がある。	a	b	c	d	e
	Q16. スポーツイベントや運動会，レクリエーションなどの活動を，スタッフやボランティアとして支えるひとが増えている。	a	b	c	d	e

質 問		選 択 肢				
		そう思う	どちらか という そう思う	どちら とも 言えない	どちらか という そう 思わない	そう 思わない
産業・ 商業	Q17. 京都では、価値を高めるために工夫したものづくりが行われている。	a	b	c	d	e
	Q18. 京都の商業は盛んで楽しく買物ができ、元気な商業者が多い。	a	b	c	d	e
	Q19. 働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。	a	b	c	d	e
	Q20. ソーシャルビジネス(社会的企業)*が育ってきている。 ※社会問題(まちづくり, 少子高齢化, 環境問題など)の解決を目的として収益事業に取り組む事業体	a	b	c	d	e
観光	Q21. 京都は、観光客にとって質の高い観光都市である。	a	b	c	d	e
	Q22. 京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。	a	b	c	d	e
	Q23. 京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都観光の振興に協力的である。	a	b	c	d	e
農 林 業	Q24. 京都の農林業が魅力を増し、後継者や新たな担い手が育っている。	a	b	c	d	e
	Q25. 市民農園や森林を守る運動, 学校の体験学習などにより, 京都の農林業が身近になってきている。	a	b	c	d	e
大 学	Q26. 京都は、「大学のまち」として学びの環境が充実し, 多様な伝統文化芸術等に触れる機会に恵まれている。	a	b	c	d	e
	Q27. 京都の大学は, 世界に貢献する高い研究成果を上げている。	a	b	c	d	e
	Q28. 大学の人材や研究成果は, 産業の活性化と雇用の創出に役立ち, 地域の発展にもつながっている。	a	b	c	d	e
国 際 化	Q29. 京都は, 文化資産の継承, 環境にやさしい取組などを通して, 平和都市として国際社会に貢献している。	a	b	c	d	e
	Q30. 京都では, 市民, 民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。	a	b	c	d	e
子 育 て 支 援	Q31. 京都では, 子どものいのちと人権が大切にされている。	a	b	c	d	e
	Q32. 働き方の見直しや男性の育児参加など, 仕事と子育ての両立に取り組むひとや企業が増えている。	a	b	c	d	e
福 祉 障 害 者	Q33. 障害への理解が進み, 障害のあるひともないひとも, 認め合い, 支え合ってくらせるまちになっている。	a	b	c	d	e

質 問		選 択 肢				
		そう思う	どちらか という そう思う	どちら とも 言えない	どちらか という そう 思わない	そう 思わない
障害者福祉	Q34. バリアフリー※などの生活しやすい社会環境の整備が進み、くらしやすいまちになっている。 ※高齢者や障害のあるひとが社会生活をしていくうえでの障壁（バリア）を除去し、ハンディキャップなく生活できるようにすること。	a	b	c	d	e
地域福祉	Q35. 社会的に弱い立場にある高齢者や障害のあるひとが、地域ぐるみで見守られている。	a	b	c	d	e
	Q36. 地域において福祉にかかわる民生委員などのボランティアのひとびとが活発に活動している。	a	b	c	d	e
高齢者福祉	Q37. 高齢者の知恵や経験、技能が社会に生かされている。	a	b	c	d	e
	Q38. 高齢者が地域で見守られ支えられて、安心してらせるまちになっている。	a	b	c	d	e
	Q39. 高齢社会が進展するなか、介護職が重要な仕事となっている。	a	b	c	d	e
保健衛生・医療	Q40. 利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。	a	b	c	d	e
	Q41. 公共の場では禁煙が進んでいる。	a	b	c	d	e
学校教育	Q42. 保護者や地域のひとびとが学校のさまざまな活動に参画するなど、地域ぐるみの教育が進んでいる。	a	b	c	d	e
	Q43. 学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとびとと連携して、子どもの教育に取り組んでいる。	a	b	c	d	e
	Q44. 京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。	a	b	c	d	e
生涯学習	Q45. 生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている。	a	b	c	d	e
	Q46. 子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が広がっている。	a	b	c	d	e
歩くまち	Q47. 歩いてこそ魅力を満喫できるまちとなっている。	a	b	c	d	e
	Q48. 地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。	a	b	c	d	e
	Q49. 駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により、自転車と歩行者が共存できている。	a	b	c	d	e
機 能 市	Q50. 買物などの日常生活には、徒歩や自転車、公共交通が便利である。	a	b	c	d	e

質 問		選 択 肢				
		そう思う	どちらか という そう思う	どちら とも 言えない	どちらか という そう 思わない	そう 思わない
機 能 都 市	Q51. 身近な地域で、自主的なまちづくり活動が進んでいる。	a	b	c	d	e
景 観	Q52. 京都の個性的な町並み景観が守られている。	a	b	c	d	e
	Q53. 京都のくらしや文化を伝えている京町家が継承されている。	a	b	c	d	e
	Q54. 三山の山並みなどの自然風景は、美しく魅力がある。	a	b	c	d	e
建 築 物	Q55. バリアフリー化された建物が増えている。	a	b	c	d	e
	Q56. 身近な地域にある細い道は、地震や火災などの災害時に被害が大きくなならないよう改善されている。	a	b	c	d	e
住 宅	Q57. 地域の行事や自治会活動に、以前から住んでいるひと、新しく転入してきたひと、分け隔てなく参加している。	a	b	c	d	e
	Q58. 低所得者や高齢者などがくらしやすい市営住宅や民間賃貸住宅が十分に確保されている。	a	b	c	d	e
道 と 緑	Q59. 京都は緑が豊かである。	a	b	c	d	e
	Q60. 道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。	a	b	c	d	e
消 防 ・ 防 災	Q61. 京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を火災などの災害から守る取組が進んでいる。	a	b	c	d	e
	Q62. 防災意識の向上とともに、地域ぐるみの災害対応力が高まっている。	a	b	c	d	e
く ら し の 水	Q63. 京都の上下水道は、安全で安心していつでも利用できる。	a	b	c	d	e
	Q64. 京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。	a	b	c	d	e
	Q65. 京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。	a	b	c	d	e

政策重要度

京都市では、次のような各分野の政策に取り組んでいます。

それぞれの政策分野が、**あなたにとって今**、どれだけ重要か、5つの選択肢の中から1つ選んで○を付けてください。頂いた回答については、今後の市政運営に活用させていただきます。

分野・政策名 ※ []は、京都市基本計画の各政策分野でめざす方向性を示す キャッチフレーズです。	選 択 肢				
	重要 である	どちらか という と重要 である	どちら とも 言えない	どちらか という と重要では ない	重要では ない
1 環境 [自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」をめざす]	a	b	c	d	e
2 人権・男女共同参画 [ひとりひとりが尊重される社会をめざす]	a	b	c	d	e
3 青少年の成長と参加 [若き市民とともに未来の京都を築く]	a	b	c	d	e
4 市民生活とコミュニティ [住民同士がつながり、おもいやり、地域みんなで築くくらし やすいまちをめざす]	a	b	c	d	e
5 市民生活の安全 [地域が支え合う、だれもが安心してくらせるまちをめざす]	a	b	c	d	e
6 文化 [世界的な文化芸術都市として創生することをめざす]	a	b	c	d	e
7 スポーツ [スポーツやレクリエーションに親しむ機会に恵まれたまちを めざす]	a	b	c	d	e
8 産業・商業 [新たな価値をつくる都市をめざす]	a	b	c	d	e
9 観光 [いよいよ旅の本質へ 世界が共感する観光都市をめざす]	a	b	c	d	e
10 農林業 [ひとと生命と環境を育む京の農林業をめざす]	a	b	c	d	e
11 大学 [大学の集積が都市の活力を支え高めるまちをめざす]	a	b	c	d	e
12 国際化 [住むひとにも、訪れるひとにも魅力的な国際都市をめざす]	a	b	c	d	e
13 子育て支援 [市民ぐるみ・地域ぐるみで子どもを共に育むまちづくりを 進める]	a	b	c	d	e
14 障害者福祉 [障害のあるひともないひと、すべてのひとが違いを認め合 い、支え合うまちづくりを推進する]	a	b	c	d	e

分野・政策名 ※ []は、京都市基本計画の各政策分野でめざす方向性を示す キャッチフレーズです。	選 択 肢				
	重要 である	どちらか という と重要 である	どちら とも 言えない	どちらか という と重要では ない	重要では ない
15 地域福祉 [自治・協働により自立を実現し、地域の福祉力をつむぎ、 高める]	a	b	c	d	e
16 高齢者福祉 [「健康長寿のまち・京都」をみんなでつくる]	a	b	c	d	e
17 保健衛生・医療 [いきいきと健やかな「笑顔・健康都市」京都を実現する]	a	b	c	d	e
18 学校教育 [市民ぐるみで子どもたちに「生きる力」を育むまちをつくる]	a	b	c	d	e
19 生涯学習 [まち全体をまなびやに 大人も子どもも学び育つまちを つくる]	a	b	c	d	e
20 歩くまち [ひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現を図る]	a	b	c	d	e
21 土地利用と都市機能配置 [地域ごとに魅力があり、持続的な都市活動を支えるエコ・ コンパクトな都市をつくる]	a	b	c	d	e
22 景観 [1200年の歴史・文化を実感でき、世界のひとびとを 魅了し続けるまちとなる]	a	b	c	d	e
23 建築物 [建築物の安全の確保と質の向上で、ひとにやさしく、安心な まちをつくる]	a	b	c	d	e
24 住宅 [ひとがつながる 未来につなぐ 京都らしいすまい・ まちづくりを継承・発展させる]	a	b	c	d	e
25 道と緑 [風土や歴史と調和した道と緑を創造する]	a	b	c	d	e
26 消防・防災 [災害に強く安心して住み続けられる「安心都市・京都」を めざす]	a	b	c	d	e
27 くらしの水 [ひと まち くらしを支える京の水をあすへつなぐ]	a	b	c	d	e

市政関心度

あなたは京都市政に関心がありますか。次の中から1つ選び○を付けてください。

- | | | |
|--------------|-------------|-------------|
| 1. 関心がある | 2. 少しは関心がある | 3. あまり関心がない |
| 4. まったく関心がない | 5. わからない | |

これまでの政策評価結果は以下のホームページに掲載しています。

(「政策評価制度」ホームページ

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000035589.html>)



京都市の政策評価に関する御意見・御提案をお待ちしています。

- ホームページ内の送信フォームによる受付

(「市民意見申出制度」ホームページ

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000110785.html>)

- 電話・FAXによる受付

京都市総合企画局市長公室政策調査担当

TEL : 075-222-3035 FAX : 075-213-1066



平成 27 年度第 1 回委員会における意見（要旨）

1 適切な客観指標の確保について

- ・ 客観指標評価結果と市民生活実感評価結果に乖離があることは、必ずしも悪いことではないが、指標や目標値の見直しや原因を検討するシグナルと捉えるべきである。
- ・ 自転車駐輪場台数（政策 20）のように目標値を達成し、当該指標の役割を一定果たした場合は、目標値の再設定ではなく、新たな指標を検討すべきである。
- ・ 平成の京町家類型認定戸数（施策 2401）のように、目標値と現況値が数年に亘って大きな乖離が生じている場合は各政策・施策に生じている課題などの原因分析を行ったうえで、具体的な対策と併せ、より適切な指標の設定を検討すべきである。

2 評価結果のより分かりやすい発信について

- ・ 冊子「政策評価結果」の「政策重要度と市民生活実感のマトリックス」について、前年度からの変化が分かるように工夫ができないか。

3 評価結果等の活用に向けた取組について

- ・ 市民生活実感調査の集計データを公開し、大学等がデータを利活用する場合は、京都市にその結果を還元するような仕組みができないか。

4 その他

- ・ 今後の課題として、悪い評価が続いている政策・施策の要因分析や対応は、更に掘り下げて検討してはどうか。
- ・ ワークショップなど、市民からも政策評価制度について意見をいただける仕組みを検討してはどうか。

政策評価制度に関する意見（素案）
～平成27年度 政策評価結果を受けて～

1 適切な客観指標の確保について

政策評価が各種行政活動に対して有効に活用できる信頼度の高い制度となるためには、適切な指標や目標値の設定が重要な要素となる。

客観指標評価結果と市民生活実感評価結果に乖離がある場合は、指標や目標値の見直しを検討するシグナルと捉えるべきである。

また、目標値を達成した場合や目標値と現況値に大きな乖離が生じている場合は、各政策・施策に生じている課題などの原因分析を行ったうえで、具体的な対策と併せて適切な指標の設定を検討するべきである。

2 評価結果のより分かりやすい発信について

政策評価がより市政の推進に活用され、市政の現状について市民にご理解いただけるよう、冊子「政策評価結果」を中心に充実が図られてきた。

更に市民に分かりやすく有益な制度とするために、政策重要度と市民生活実感のマトリックスについて、前年度からの動向が把握できるようにすべきである。

3 評価結果の活用に向けた取組について

市民生活実感調査の集計データは、年代や性別ごとに政策重要度や政策分野の関心が判るなど、公共財として非常に有益なデータであり、大学の研究をはじめ様々な形で利活用されることが期待される。

市民や企業、教育機関等が利活用できるよう、市民生活実感調査の集計データを二次利用可能なルールの下で公開することはもとより、その分析結果を京都市に還元するような仕組みを検討すべきである。

4 施策評価票の改善について

施策評価票について、市民により分かりやすい様式に改善するとともに、客観指標総合評価及び市民生活実感調査総合評価がc評価以下の施策の原因分析に重点化したうえで、今後の方向性を記載することを検討すべきである。

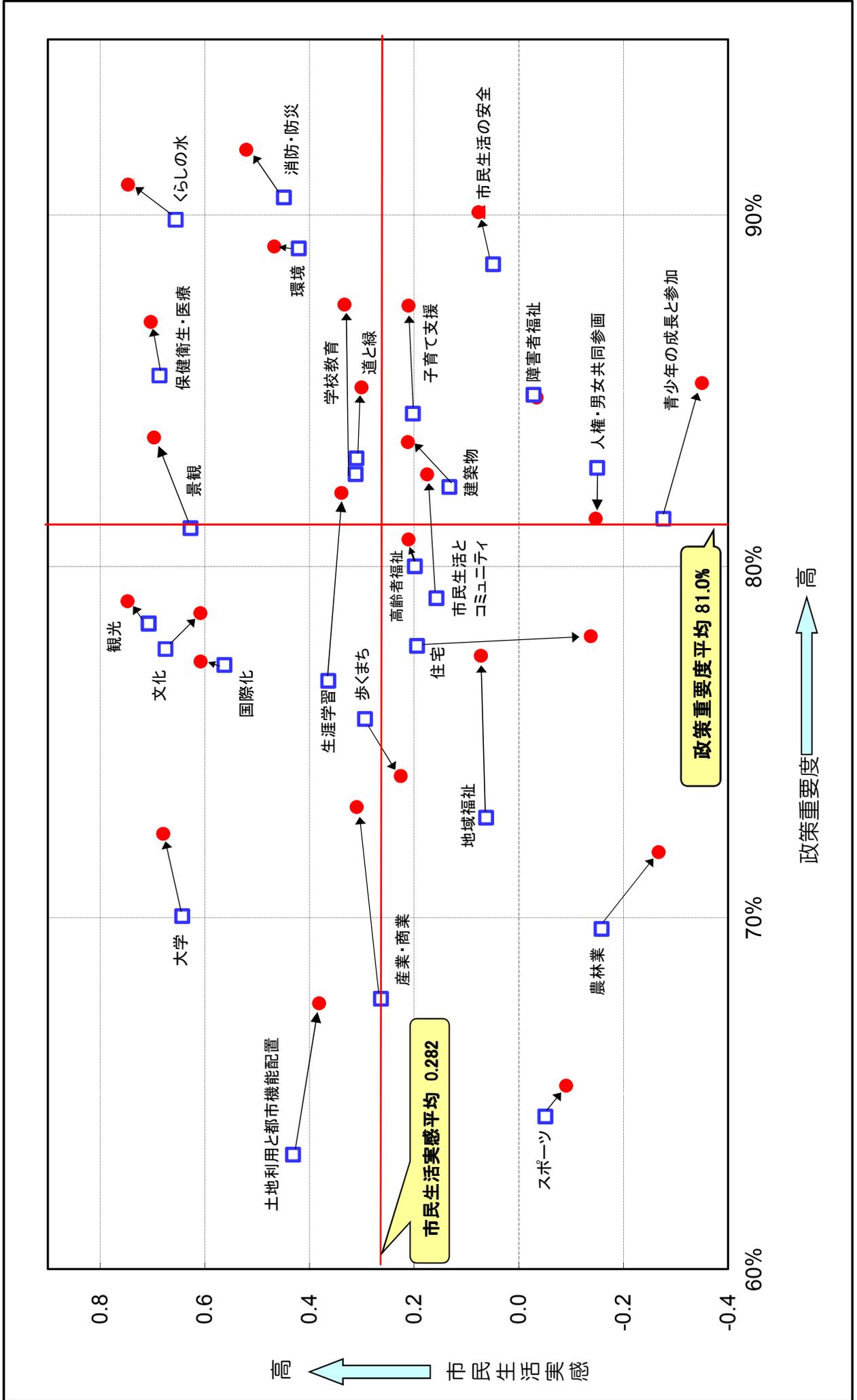
また、施策評価票の市民実感総合評価結果の経年変化が把握できるように、客観指標評価と同様に過去2年分の評価結果を記載するべきである。

～イメージ～

政策重要度と生活実感のマトリックス

政策重要度：回答数 ÷ 有効回答者数 生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

□：前年度 ●：今年度



施策番号	0401		
施策名	いきいきと活動する地域コミュニティづくり		
概要	住みよいまちづくりの基本となる地域コミュニティの活性化に向けて、まちづくりアドバイザーの助言や地域における様々な居場所づくりなどの支援を行う。		
担当局・部室	文化市民局・地域自治推進室	共管局・部室	
上位政策	4 市民生活とコミュニティ		
施策に関する 主な分野別計画等	京都市地域コミュニティ活性化推進計画		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名	25年度	26年度	27年度評価						
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウエイト	
1 地域活動の担い手づくりを主目的とした講座等への参加者数(人)	b	b	691	5,691	700	813.0%	a	1.00	
2 ホームページ等による情報発信を行っている学区数(学区)	-	d	18	19	30	63.3%	e	1.00	
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
		b	c	客観指標総合評価				c	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	25年度	26年度	27年度回答					有効回答者数	評価
			そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない		
1 地域の一員として安心してらせるまちになっている。	b	b	60 10.9%	238 43.3%	146 26.5%	67 12.2%	39 7.1%	550	b
2 町内会、自治会など地域の組織の活動が盛んである。	b	c	77 14.4%	169 31.6%	158 29.6%	77 14.4%	53 9.9%	534	c
3 地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。	c	c	36 7.3%	141 28.4%	183 36.9%	94 19.0%	42 8.5%	496	c
4 -									-
5 -									-
		b	c	市民生活実感調査総合評価				c	

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

C	施策の目的がそれぞれ達成されている						
	重み付け	<input type="checkbox"/> 客観指標	c	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 地域コミュニティは共同体意識を基礎とするため、「市民の実感」に重みを置く。						26 年度	C
(原因分析) 客観指標総合評価 <input type="checkbox"/> b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 <input checked="" type="checkbox"/> c評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・地域活動の担い手づくりを主目的とした講座等への参加者は、区役所・支所の取組などにより参加者が増加しており、前年度のb→a評価と改善している。 ・ホームページ等による情報発信を行っている学区数は、前年度より1学区増加しているが、維持管理のための労力が大きいことにより目標値に対して伸び悩んでいるためと考えられる。							
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 <input type="checkbox"/> b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 <input checked="" type="checkbox"/> c評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・地域の一員として安心して暮らせるまちになっていると思っている人は数及び割合ともに減少しているが、地域の活性化、主体性については前年度をわずかながら上回り、総合評価はc評価となった。平成26年度の自治会・町内会アンケートでは、平成25年度に引き続き、自治会・町内会の加入の呼び掛けを特段行っていない割合が、平成24年度と比べて半数以下の割合となっており、自治会・町内会の推計加入世帯数は平成25年度に比べて増加している。一方、市内世帯数も増加しており、自治会・町内会の推計加入率は微増にとどまった。こうしたことから、市民に実感されるまでには至っていないと考えられる。						25 年度	B

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		27年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		26年度 決算額	27年度 予算額		
1	京都市内周辺地域における認可地縁団体等乗合バス運行補助	1,294	1,525	かなり良い	文化市民局
2	市政協力委員経費	243,596	246,463	良い	文化市民局
3	集会所新築等補助金	32,788	30,199	良い	文化市民局
4	地域コミュニティ活性化策の推進	74,615	61,853	良い	文化市民局
5	京北地域活性化支援事業助成	6,329	5,983	良い	文化市民局
6	小金塚地域バス路線転回場賃借料負担金	1,925	2,150	良い	文化市民局
7	地域コミュニティ活性化推進計画の点検・見直し	-	13,867	-	文化市民局
8					
9					
10					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・ホームページ等による情報発信を行っている学区数の伸び悩みが課題となっていることから、地域コミュニティ活性化に向けた地域活動支援制度の利用によるホームページ開設を働き掛けていく。
- ・地域の活性化、主体性が課題となっていることから、地域コミュニティ活性化に向けた地域活動支援制度の周知を徹底し、地域の取組や活性化を促していく。
- ・新たな転入者、とりわけ共同住宅への入居者等に対して、地域の取組や活動等を周知し、自治会・町内会の加入につながるよう啓発を行うとともに、地域コミュニティ活性化に向けた地域活動支援制度の活用などにより、地域力がより一層実感されるよう取り組んでいく。

市民意見の受付状況**【行政評価条例（市民の意見申出）】**

第17条 市民は、行政評価等の方法、結果その他の事項に関し、当該行政評価等を実施する実施機関に対し、意見を申し出ることができる。

- 2 実施機関は、前項の意見を受けた場合においては、これを誠実に処理し、その処理の結果を公表しなければならない。
- 3 前項に定めるもののほか、実施機関は、行政評価に係る意見にあつては当該行政評価を所管する委員会がある場合には当該委員会に、外郭団体経営評価に係る意見にあつては専門員に当該意見の処理の結果を報告しなければならない。

<受付状況>

平成23年度：8件

平成24年度：2件

平成25年度：6件

平成26年度：0件

平成27年度：0件（2月1日現在）

政策評価制度のこれまでの主な改善点等について

1 適切な客観指標の確保

継続性に配慮しながら、随時、より適切な指標の設定、見直しを促進

2 1年度

各局等が適切な客観指標の設定、指標の再点検を行うための手順を分かりやすく説明した「客観指標の設定マニュアル」を作成

2 3年度

従来、施策指標から主要な指標を選んで設定していた「政策指標」を、施策指標とは別に政策独自の指標を設定

2 評価結果のより分かりやすい発信

(1) 冊子「政策評価結果」の充実

2 0年度 点字版を作成

2 4年度 市民生活実感調査の概要を記載
市民意見申出の方法等を記載

2 6年度 評価結果を踏まえた市の課題や方向性の記載を充実

2 7年度 政策評価結果の経年変化やその原因・特徴が把握しやすいよう記載を充実

(2) ホームページの充実

1 9年度 全ページの閲覧を開始

2 2年度 評価結果のポイントが一目で分かるページを掲載

2 5年度 「よく分かる！京都市の政策評価制度」の掲載

2 6年度 国や政令市の政策評価制度等に関するホームページのリンク掲載

3 評価結果の活用に向けた取組

(1) 評価票の充実

1 9年度

- ・ 経年変化の比較ができるよう、3年分のデータを掲載
- ・ 施策評価票への事務事業評価結果の記載につき、従来の主な事務事業名に加えて、予算額、評価結果等を掲載
- ・ 原因分析や今後の方向性に関する記載を追加

2 1年度 見やすさのため見開き2ページに統一

2 3年度

施策評価票の「この施策を構成する事務事業」欄に掲載する事務事業評価結果について、従来は前年度分を掲載していたが、当年度分を掲載

2 6年度

客観指標と市民生活実感調査結果の原因分析を踏まえた市の課題や方向性の記載を充実

27年度

政策の評価票と施策の評価票，また政策及び施策の評価票と客観指標データ，
それぞれがスムーズに相互参照できる構成に改善

(2) その他

26年度

基本計画実施状況報告への評価結果記載による両者の連携